

第5学年 国語科学習指導案

場 所 大ホール

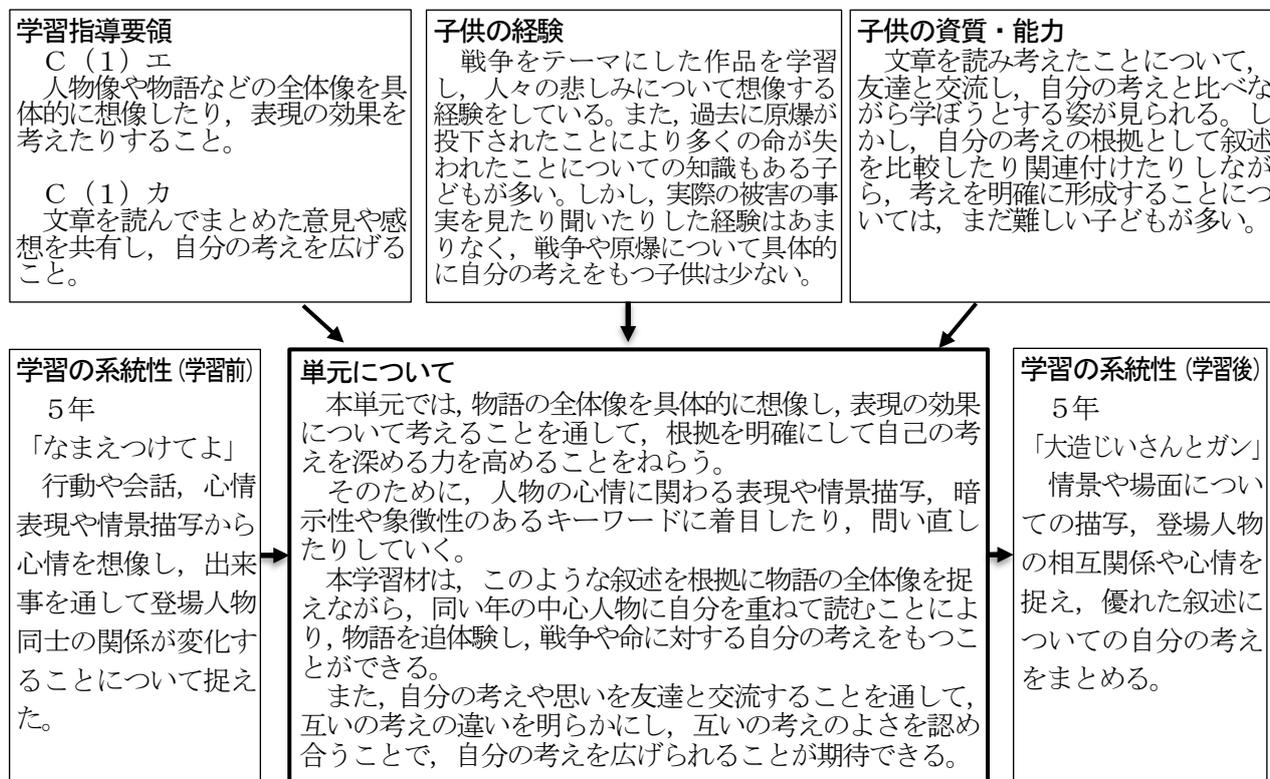
児 童 男17名 女15名 計32名

指導者 寺 山 幸 代

1 単元名

物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう 『たずねびと』(光村図書5年)

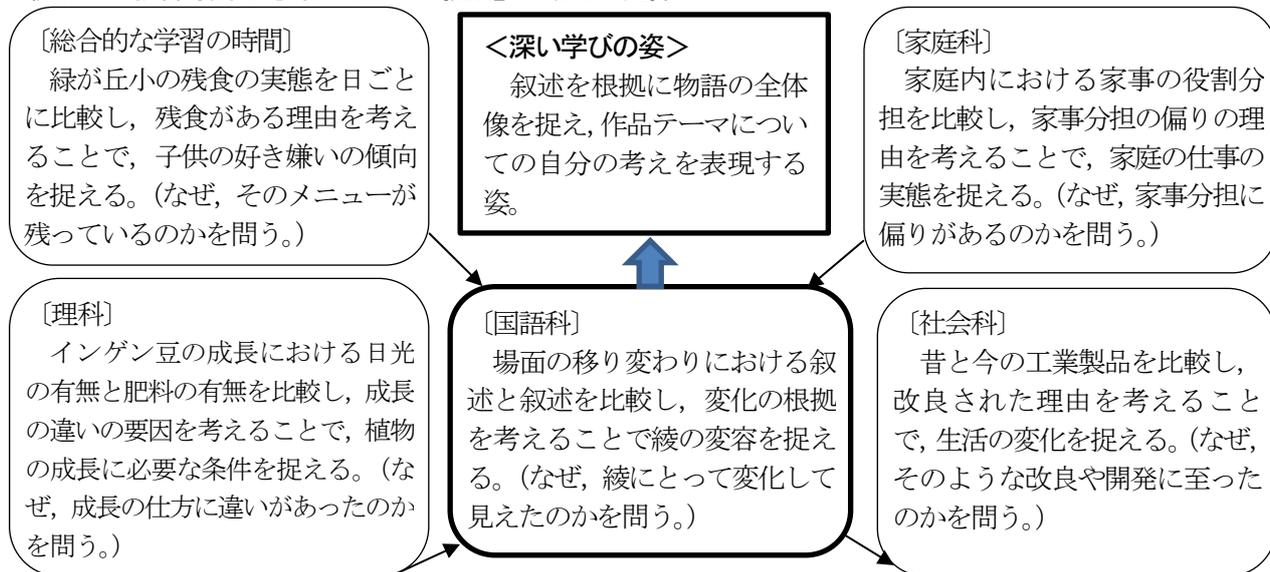
2 単元の指導構想



3 指導にあたって

そこで、根拠を明確にして自己の考えを深める子供を育むために、その実現に向けて、以下のような手立てをとる。

視点1 教科等間の『考えるための技法』の活用・発揮



視点2 深い学びの実現に向かう単元構成

本単元で設定した深い学びの姿「叙述を根拠に物語の全体像を捉え、作品のテーマについての自分の考えを表現する。」ことができるように、以下のように単元を構成する。

- ・ 物語の中心人物の「綾」が、同じ年齢であることを実感し、「綾」の作品中での体験を追体験しながら、戦争を他人事ではなく今を生きる自分事として考えられるようにする。叙述を根拠に物語の全体像を捉えることができるように、既習作品『なまえつけてよ』における「行動・会話、心情表現、情景描写」をいくつか挙げ、同じように「綾」の心情を想像することができそうな叙述が文章中にないか問い、叙述に着目する見通しをもつ場面を位置付ける。また、『たずねびと』という題名に着目し、「象徴性のある題名が何を意味しているのか」を問い、「作品からのメッセージを受け取り、自分なりに考えたことを友達と交流したい」という学習の見通しを設定する。
- ・ 行動、会話、心情表現などの叙述、特に心情を表す表現と繊細な情景描写に着目し、それらの場面による変化を比較しながら登場人物の心情の変化を読み取ることができるようにする。そのために、単元を貫く課題『たずねびと』とは、何だろう。」と、毎時間の学習課題、学習活動が一体となるように単元を構成する。例えば、人物の心情の変化と関連付けられ、「綾」にとっての「たずねびと」とは何かについて考えることができるように、同じものの場面ごとの描写の違いを問い、「比較」することを促す。また、それらの言葉の語感を問い、言葉を吟味しながら読むことを促し、物語の全体像を捉えることをねらう。
- ・ 作品から受け取ったメッセージを自分のこれからの生き方と関連付けてまとめ、自分の考えを広げることができるようにしていく。そのために、学習前後のテーマに対する考えの比較をしたり、友達と交流したりする活動を設定する。受容し共感しながら友達の考えを自分の学びに生かし、考えを広げたり深めたりすることができるように、友達が着目した叙述やそれにもとづく考えと、自分の考えを比較しながら聞くことを促す。

視点3 単位時間の考える活動の充実

- ・ 単位時間の課題について見通しをもって考えることができるように、着目する叙述を焦点化する発問をする。行動・会話、心情表現、情景描写、登場人物の会話など、「綾」の心情を想像するために着目する叙述に焦点化する。また、場面ごとに比較しながら読み、比較したことによって心情の変化が捉えられるよう、ベン図やマトリクス等の思考ツールを用いて、構造的な板書をする。
- ・ 単元を貫く課題『たずねびと』とは何か。」に対する自分の考えを明らかにし、友達と交流するという目的に向かって学習することができるように、1単位時間ごとの自分の思いや考えを書き留めてまとめに生かすことを促す。
- ・ 叙述に着目して比較して読むことのよさを実感し、本単元以外でも比較や関連付けを汎用的に活用しようとする意欲を高めることができるように、「場面ごとの叙述」「綾とアヤ」「綾と自分」「自分と友達」「読前と読後」を比較したり関連付けたりしたことで、自分の思考が広がったことを自覚している子供の振り返りの記述を価値付ける。

4 単元の指導計画

(1) 目標

- ・ 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。【知識及び技能】
- ・ 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
- ・ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・ 今を生きる自分を見つめるために、学習の見通しをもち、他者と関わりながら粘り強く考えようとする。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 登場人物の心情を表現するために用いられている言葉に着目し、語感や言葉の使い方について考えている。	① 叙述を根拠に物語の全体像を捉えたり、表現の効果を考えたりしている。 ② 他者との交流を通して、互いの考えの違いを明らかにしたり、よさを認め合ったりしながら自分の考えを広げている。	① 学習の見通しをもち、物語の全体像を具体的に捉え、他者と考えを交流しようとしている。 ② 捉えたことや友達の考えを生かし、今を生きる自分について考えたことをまとめようとしている。

(3) 指導計画 (6時間)

時	主な学習活動	指導の手立て	総括	評価規準 (評価方法)
1	題名の意味を想像し、昔の人と自分とのつながりについて考え、単元の学習課題を設定する。 「たずねびと」とは何だろう。	・ 読後の読みの広がりを感じることができるよう、『たずねびと』という題名に着目するように促すとともに、作品の内容を一文で表現する活動を設定する。	関連付け	・ 学習の見通しをもち、物語の全体像を捉え、他者と交流しようとしている。 【態①→ワークシート, 発言】
2	(1) 1～4場面を読み、人物設定や状況設定を確かめる。 (2) 全体を読み、「綾」の前に現れたものや人物を確かめる。 綾は何に会ったのだろう。	・ 「綾」と自分を重ねて作品を読み進めることができるように、自分自身と比較する発問をする。 ・ 様々なものや場所、人と出会いながら物語が進んでいくことを捉えることができるよう、場面ごとに板書で整理する。	比較	・ 登場人物の心情を表現するために用いられていることばに着目し、語感や言葉の使い方について考えている。 【知①→ワークシート, 発言】
3	「綾」の心情が表れている言葉に着目し、広島での心情の変化を捉える。 綾はどのような心情になったのだろう。	・ 広島についてから、次々に出会うものによって綾の心情が変化することが捉えられるように、前時のものや人物と綾の心情表現の関係が分かるよう板書に位置付ける。	関連付け	・ 叙述を根拠に物語の全体像を捉えたり、表現の効果を考えたりしている。 【思①→ワークシート, 発言】
4	「綾」が訪ねた場所や会った人は、「綾」に何を伝える役割をしていたか考える。 綾にとって大切な出会いは、何だったのだろう。	・ おばあさんとの出会いの意味、おばあさんの会話を受けての綾の心情、おばあさんによって「アヤ」と出会えたことなどを捉えられるように、綾にとっての「たずねびと」が誰なのかを問う。	関連付け	・ 他者との交流を通して、互いの考えの違いを明らかにしたり、よさを認め合ったりしながら自分の考えを広げている。 【思②→ワークシート, 発言】
5	情景描写や行動描写を比較して読み、「綾」の変容を捉える。(本時) 綾の前に現れた景色や名前は、なぜ変化して見えたのだろう。	・ そのような変容をもたらしたのは、「アヤ」やおばあさんとの出会いがあったからということに気付くよう、物語の展開と、「アヤ」の存在、見え方の違いが捉えられるよう、板書に整理する。	比較	【思②→ワークシート, 発言】
6	(1) 作品から受けとったメッセージを自分なりの言葉で表し、今を生きる自分の考えの変容をまとめる。 (2) まとめたことを友達と交流し、自分の考えをまとめ直す。 私にとっての「たずねびと」とは何だろう。	・ 作品のテーマを一般化し、解釈したことを端的に表すことができるように、この作品の内容を一文で表現する活動を設定する。 ・ 着目した叙述の違いに気づき、戦争や命についての考えの違いやよさを自分の考えに生かすことができるように、友達の考えを自分と比べながら聞くことを促す。	比較	・ 捉えたことや友達のことを生かし、今を生きる自分について考えたことをまとめようとしている。 【態②→ワークシート, 発言】 ・ 他者との交流を通して、互いの考えの違いを明らかにしたり、よさを認め合ったりしながら自分の考えを広げている。 【思②→ワークシート, 発言】

5 本時の指導計画

(1) 目標

場面ごとの情景描写や行動描写を比較することを通して、中心人物の心情の変化を捉えることができる。
(精査・解釈(1)エ)【思考力、判断力、表現力等】

(2) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
情景描写や行動描写に着目し、場面ごとに比較しながら、根拠を明らかにして「綾」の心情の変化を具体的に想像している。 [思考・判断・表現]	場面によって同じものを表していても描写に違いがあることを確かめ、なぜ、「綾」にとって違って見えたのかを問う。

(3) 展開

段階	主な学習活動・学習内容	教師の支援 (◇評価)
導入 (5分)	1 情景描写に着目することを捉える。 2 課題を設定する。 綾の前に現れた景色や名前は、なぜ変化して見えたのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> 人物の心情を捉えるための要素として、前時までに着目した描写以外にも情景描写があることについて気付くことができるように、『なまえつけてよ』の情景描写を例示し、「綾」の心情が暗示されているような情景はないか問う。 「町」「名前」「空や川」「楠木アヤという文字」に着目できるように、どの叙述が前の場面と変化しているか問う。
展開 (33分)	3 情景描写や行動描写を比較し、「綾」のどんな出会いがもとになって心情が変化したのかを考える。 4 叙述が変化した理由となる「綾」の心情について想像したことを交流する。 5 学習をまとめる。 「綾」は、広島で様々なものに出会い、おばあさんの話を聞いたことをきっかけに、「アヤ」が現実生きていたことを感じた。原爆の証拠も見ただことによつてたくさんの方が原爆によって命を落としたことも実際に感じたから、同じ景色も違って見えたし、名前もただの名前でなく生きていた証拠として見えた。綾は、広島に行ったことでその人たちの分まで生きようと考えた。	<ul style="list-style-type: none"> 変化のきっかけを捉えることができるように、焦点化した叙述について、『綾』にとって、なぜそれらが変化して見えたのか、違った行動をとったのか。」と問う。 変化のきっかけによる変化の内容を捉えられるように、「広島に行く前と後で綾の心情はどのように変化したのか。」と問う。 <p>手立て① 場面ごとの叙述の違いとその理由となる「綾」の心情の変化を比較して捉えられるよう、場面の移り変わりを縦軸、最初と最後の情景描写の比較を横軸に取り、変化のきっかけと「綾」の心情の変化を整理して、子供の発言を板書に位置付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題に対する自分の考えをよりよく再構築することができるように、自分の考えと比べながら聞き、友達の考えのよさを付け足すことを促す。 <p>◇ 情景描写や行動描写に着目し、場面ごとに比較しながら、根拠を明らかにして「綾」の心情の変化を具体的に想像している。 【思 シート・発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情景描写を用いると、人物の心情を想像する根拠となる叙述を探しながら読むことにつながるということに気付くよう、なぜ、最終場面で情景描写が用いられているのか問う。
まとめ (7分)	6 叙述を根拠に比較しながら人物の心情の変化を捉えたことについて、学習を振り返る。	<p>手立て②</p> <ul style="list-style-type: none"> 叙述を比較して読むことによって人物の心情の変化が具体的に想像できることよさに気付くことができるよう、「なぜ、『綾』の心情の変化が捉えられたか。」と問う。 友達の考えと比較しながら聞くことによって、自分の考えが広がるという、受容・共感的な学び方のよさに気付くよう、「友達からの学びはどんなことだったか。」と問う。

